

2014年度 日本文化人類学会

第25期・第26期新旧合同理事会 議事録(案)

日時：2014年4月19日(土) 13:00～16:00

会場：日本青年館5階504号室

(第25期)

出席者：小泉、綾部、池田、上杉、小田、春日、岸上、窪田、棚橋、出口、松田、三尾、森山、山本、

委任状提出：赤堀、亀井、栗本、佐々木、清水、曾我、高倉、中谷

欠席者：和崎

(第26期)

出席者：関根、池田、石田、上杉、太田、岡田、春日、岸上、窪田、栗田、桑山、湖中、真島、松田、松村、山本、和崎

委任状提出：赤堀、亀井、慶田、田中、名和

欠席者：瀬川、和崎

*下線は重任

[承認事項]

1. 2013年度第8回理事会議事録

[報告事項]

1. 会計理事報告
 - ・三尾第25期会計担当理事より、平成26年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(成果公開発表B)について不採択通知が届いたこと、国際情報発信強化(B)の採択内定通知が届いたことを報告。
2. 第25期各種委員会報告
 - ・『文化人類学』編集委員会：松田第25期『文化人類学』編集主任より、78巻4号の刊行と前回理事会で報告した投稿フォーム不具合の原因と不具合解消について報告。
 - ・JRCA編集委員会：窪田第25期JRCA編集主任より、Vol.14の刊行について報告。
 - ・研究大会運営検討委員会・研究発表査読委員会：春日第25期研究大会運営検討委員長・研究発表査読委員長より、第48回研究大会の準備状況等について報告。

[審議事項]

(新旧合同理事会)

1. 第26期理事の役割分担について
 - ・関根第26期会長候補より挨拶。第26期理事の役割分担について説明があり承認された。特に以下の4点について説明があり、承認された。
 - ①特別体制として学会50周年記念事業に関わる経理を担当する会計担当理事補佐を置くこと。
 - ②今年半ば、『文化人類学』編集主任が本務により国内不在がちとなるため編集主任補佐を置くこと。
 - ③2014年度事業計画策定に関わり、法人化に向けての検討が急務の課題であることから法人化検討委員会を新設すること。
 - ④2014年度事業計画策定に関わり、学会賞のあり方を検討する学会賞検討委員会を新設すること。
 - ・綾部第25期理事より、理事会内への学会50周年事業担当理事の設置について質問があり、本件については次回理事会にて検討することとした。
2. 総務会の職掌と構成について
 - ・棚橋第25期庶務担当理事より、第25期理事会における総務会の職掌と構成について説明があった。
 - ・関根第26期会長候補より、第26期理事会における総務会の職掌と構成について説明があり承認され

た。

3. 第25期理事会から第26期理事会への引継に関する全体説明

- ・小泉第25期会長より第25期の活動について、現在進行中の学会50周年記念事業を中心に総括的な説明があった。また、今後の検討課題として以下の5点が申し送られた。

- ① 日本学術振興会の科学研究費補助金が従来の学術定期刊行物の補助から国際情報発信強化のための補助へと方針転換されており、単年度採択の内定通知があった平成26年度以降も引き続き申請を行うことが重要であること。
- ② 法人化へ向けての検討。
- ③ 学会賞が転換期を迎えているため、学会賞のあり方の検討。
- ④ 若手研究者への支援策の検討。
- ⑤ 文化人類学という学問の社会に向けた発信と文部科学省に対する要請及び方策の検討。

- ・棚橋第25期庶務担当理事より、2013年度事業報告について説明があった。

- ・三尾第25期会計担当理事より、2013年度決算について説明があった。

- ・三尾第25期会計担当理事より、以下の提案があった。

- ① 「日本文化人類学会地区研究懇談会規程」について下記の通り改正提案があり承認された。(改正部分は下線部の通り。)

(改正前)

第五条 三 本会計によって充当される経費の用途は、次の通りとする。

…中略…

なお、懇親会費等の飲食費にこの経費を当てることはできない。

(改正後)

第五条 三 本会計によって充当される経費の用途は、次の通りとする。

…中略…

なお、懇親会費にこの経費を当てることはできない。

- ② 科学研究費補助金国際情報発信強化 (B) に係る申請や各書類作成について、これまでの出版助成とは異なるため、会計担当理事だけではなく計画に関連する委員や担当理事が関わる必要があることが説明された。審議の結果、担当ワーキンググループを作り、平成26年度交付申請書提出に向けて対応を行うことが承認された。

4. 第25期理事会から第26期理事会への担当理事別の引継説明 (30分程度)

- ・各委員会・担当の引継ぎを新旧担当理事が個別に行い、時間が不足する場合は個別に連絡の方法を決定して後日引継を完了することとした。

- ・個別に行った引継の結果については、書面を作成して棚橋第25期庶務担当理事及び学会事務局に提出し、棚橋第25期庶務担当理事が集約して第26期総務会に伝えることとした。

(第26期理事会)

5. 新入会員の承認について

- ・2013年度第8回理事会以降の入会申込書を回覧し、6名の入会を承認した。2008年度以降、総務会で随時入会承認を行い、次の理事会で事後承認を得る手順を実施していることを説明し、今期も同様の手順を踏むことを確認した。

6. 2014年度事業計画案および2014年度予算案の概要について

- ・松村庶務担当理事より、2014年度事業計画(案)について説明があり、原案が第25期理事会からの申し送りであることを確認の上、担当ごとに原案を検討し意見があれば4月30日までに松村理事へ連絡するよう要請した。

- ・欠席の赤堀会計担当理事に代わり、松村庶務担当理事より、2014年度予算(案)について説明があり、原案が第25期理事会からの申し送りであることを確認の上、担当ごとに原案を検討し意見があれば、4月30日までに赤堀会計担当理事へ連絡するよう要請した。

- ・関根第26期会長候補より、学会50周年記念事業に関連し、2014年度予算案における将来計画基金から本会計への500万円組み入れについて、組み入れ金額決定のプロセスを第25期理事会へ確認したいとの発言があり、小泉第25期会長より学会50周年記念事業の実施において収入を増やし支出を削減する努力を続けているが、国際研究大会終了まで収入額が確定しない部分もあるため、バッファーと

して将来計画基金からの引き出し金を充てる必要があり、これについては第25期理事会において承認されていることが説明された。

本件に関し意見交換を行った結果、2014年度総会において会員に対し十分な説明を行う必要があることが確認され、関根第26期会長候補より小泉第25期会長に対し、将来計画基金から本会計への組み入れ額(案)の積算根拠資料を4月中に第26期理事会へ向けて提出してもらうよう依頼がなされた。

7. 第5回(平成26年度)日本学術振興会育志賞受賞候補者の学会推薦について

- ・松村庶務担当理事より、「第5回(平成26年度)日本学術振興会育志賞」候補者の学会推薦依頼があったことが報告された。審議の結果、過年度と同様、JASCA-INFOを通じて学会推薦候補者の募集を実施すること、配信文案については総務会に一任することが承認された。なお、学会推薦候補選出工程についても過年度と同様の手順で行うことを承認した。

8. 会費徴収特例措置の延長について

- ・松村庶務担当理事より、「東日本大震災の被災会員に対する2011年度会費徴収特例措置」について説明の上、2014年度の特例措置延長について提案があり、承認された。この決定についてはJASCA-INFOで会員に周知すること、配信文案については総務会に一任することが承認された。

9. 名誉会員候補者の選出について

- ・松村庶務担当理事より、2014年度に名誉会員内規第二章第二条に基づき1名の候補資格者がいることが説明された。例年よりも総会時期が早いことを考慮し、第25期2013年度第8回理事会において審議を実施し承認済みであることが報告され、第26期理事会において引き継いだ上で、承認された。他に推薦があれば次回理事会まで提案を受け付けることとした。

10. 第26期監事候補者の選出について

- ・松村庶務担当理事より、監事候補の選出方法についての第26期総務会案が提示され、承認された。

11. その他

- ・次回理事会は5月3日(土)開催。

以上